kanamoto examiner

カナモトエグザミナー

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ

vol.68

第50期（2014年10月期）第2四半期号

東日本大震災への対応⑪——社会インフラ復興工事が本格化

日々高まる需要に対応し、復興支援に尽力してまいります。

2014年3月末で瓦礫の処理に一応の目処が立ち、被災地では復興工事が本格化しています。岩手・宮城・福島のいわゆる被災3県では「防災集団移転促進事業（高台移転）」をはじめとして、堤防・護岸工事も継続して行われているほか、復興道路・復興支援道路など社会インフラの復興に向けた工事が着々と進んでいます。
当社グループは、これら日に日に増加する需要に総力を挙げて対応し、一日も早い復興に引き続き尽力してまいります。

上：宮城県南三陸町の土地嵩上げ工事
左：宮城県南三陸町の防波堤復旧工事

宮城県仙台市の南部海岸防潮堤工事

宮城県石巻市の瓦礫解体工事

宮城県石巻市の防潮堤工事

岩手県下閉伊郡の整地（高台移転）工事

What's Rental ? レンタルの特長、リースとの違い

カナモトの主力事業「レンタル」は、同じ “賃借” という意味で「リース」と混同されがちですが、それぞれ違う特徴を持っています。リースとは、モノを買う資金をリース会社から借り、それを中長期にわたってリース料という形で返済する方式のこと。これに対してレンタルは、ユーザーが「必要なモノを」「必要な時に」「必要な数だけ」借りられるという特長を持つシステムで、下記のとおりさまざまなメリットがあります。

「レンタル」を利用するメリット

❶建機の購入代金などの設備投資費用を、最大限に軽減できる
❷先進機能を搭載した機種を、いつでも調達・使用できる
❸建機の保管場所を確保する費用・手間ともに不要
❹建機の維持管理などのメンテナンス費用は貸主（レンタル会社）が負担（オイル・消耗品は除く）
❺毎月の減価償却や固定資産税・保険料などの費用発生にともなう煩雑な経理処理が不要

	レンタル	リース
契約期間	短期（日単位）	長期（主に年単位）
貸出対象	不特定多数	特定の借主
メンテナンス費用	貸主側の負担	借主側の負担（原則）
貸出側の在庫	大量の在庫を用意	不要
オペレータの有無	なし	なし
主な取扱商品	DVD、CD、什器備品、パソコン、パソコン周辺機器、医療機器、介護用品、自動車、建設機械、工作機械、仮設機材 etc.	電話、コピー機、パソコン、パソコン周辺機器、医療機器、介護用品、自動車、建設機械、工作機械、航空機、タンカー　etc.

第50期第2四半期事業報告書 [平成25(2013)年11月1日から平成26(2014)年4月30日まで]

●連結経営成績（累計）

	売上高（百万円）	営業利益（百万円）	経常利益（百万円）	四半期(当期)純利益（百万円）	EPS（円）
第50期第2四半期	64,212(17.3)	10,072(49.2)	9,860 (46.9)	5,651 (52.1)	156.82
第50期第2四半期予想（前回発表予想値）	59,600 (8.9)	7,390 (9.5)	7,030 (4.7)	3,820 (2.8)	105.99
（ご参考）第49期第2四半期実績	54,733(36.8)	6,751(89.9)	6,714(103.6)	3,716(109.2)	113.20

●連結業績予想

第50期通期予想	122,600(10.6)	16,010(40.5)	15,540(40.3)	7,770 (33.8)	215.59
第50期通期予想（前回発表予想値）	117,500 (6.0)	12,530(10.0)	12,090 (9.2)	6,050 (4.1)	167.87
（ご参考）第49期通期実績	110,831(28.7)	11,392(77.2)	11,073(86.6)	5,809 (62.5)	175.50

（注1）売上高、営業利益、経常利益、四半期（当期）純利益における括弧内の数字は、前年同期増減率（%）を示しております。（注2）「前回発表予想値」は、2013年12月11日に公表した予想数値です。

[経営環境]

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府による経済政策や為替水準の安定を背景に、企業収益や雇用情勢の改善も見られるなど、穏やかな回復基調をたどりました。

[第２四半期の連結業績]

当社グループが関連する建設業界につきましては、経済対策効果による公共投資の増加や民間設備投資の持ち直しに加え、消費税増税前の駆け込み需要などもあり、期初の想定を上回る水準で推移いたしました。しかしながら、一方で技能労働者不足や原材料単価の上昇による入札不調や着工遅延が顕在化するなど、懸念要素を含んだ動きとなりました。

このような状況のもと、当社グループは引き続き被災地の早期復興を実現すべく、労働力や建設機械が不足する東北地区に経営資源を集中させ、一層の営業体制の強化を図るとともに、資産運用の最適化による収益率の向上やグループ企業との連携強化、企業体質の強化と財務基盤の改善に努めました。

当第2四半期の連結売上高は642億12百万円（前年同期比17.3%増）となりました。利益面につきましては、営業利益は100億72百万円（同49.2％増）、経常利益は98億60百万円（同46.9％増）、また、四半期純利益は56億51百万円（同52.1%増）となりました。

[セグメント別の業績]

建設関連事業

当社の主力事業である建設関連事業につきましては、これまでの地域戦略を推進する一方、いち早く積極的な設備投資を行うなど、最大限需要に応える体制の構築を進めてきました。また、グループ企業と連携した営業強化に努めてきたことなどが寄与し、国内全地区で前年実績を上回る結果となりました。

なお、中古建機販売は、資産構成の適正化のため保有資産の計画売却を適時実施したことから、前年同期比92.1%増となりました。

以上の結果、建設関連事業の当第２四半期連結累計期間の売上高は604億49百万円（前年同期比17.6％増）、営業利益は98億25百万円（同49.8%増）となりました。

その他の事業

北海道で展開する鉄鋼製品販売事業につきましては、免震工事関連現場や港湾護岸工事関連向けの販売が好調だったことに加え、消費税増税前の駆け込み需要もあり売上高は前年同期比12.6%増となりました。また、情報通信関連その他事業ではパソコンのレンタル期間の延長やOSの切り替えによる新規需要の取り込みもあり、人材派遣ともに伸長し同19.9%増となりました。

以上の結果、その他の事業の当第２四半期連結累計期間の売上高は37億63百万円（前年同期比13.6%増）、営業利益は79百万円（同26.4%増）となりました。

[特記すべき事業展開と拠点新設・閉鎖の状況]

当第２四半期連結会計期間における拠点の新設は陸前高田営業所（岩手県陸前高田市）の1ヶ所、閉鎖はありませんでした。

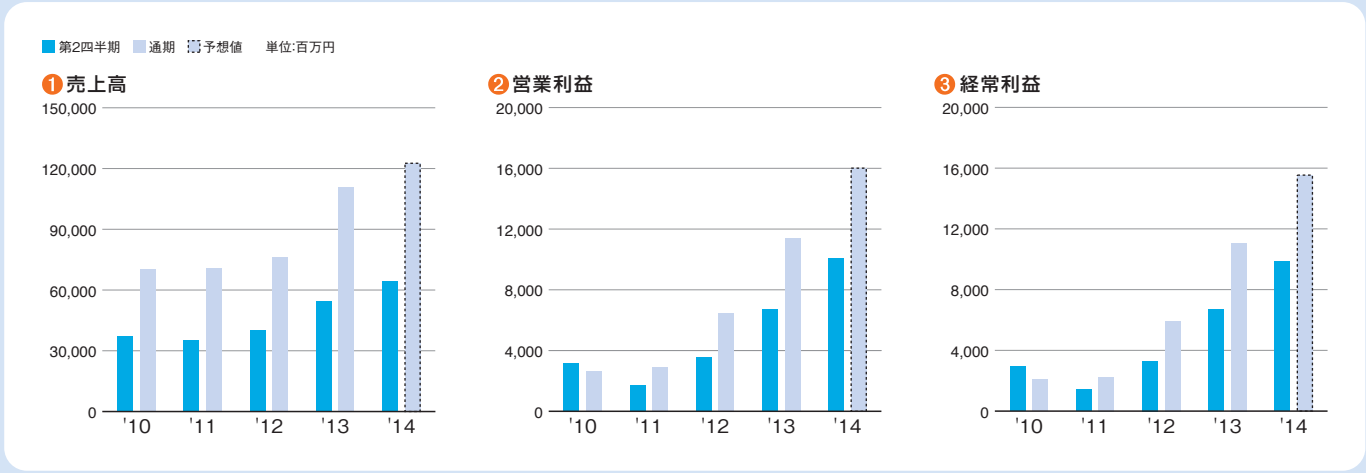
■ 連結財務諸表

連結損益計算書(累計)

(単位:百万円)	第49期第2四半期 (2012.11.1~2013.4.30)	第50期第2四半期 (2013.11.1~2014.4.30)
❶ 売上高	54,733	64,212
売上原価	37,016	42,706
売上総利益	17,717	21,506
販売費及び一般管理費	10,966	11,434
❷ 営業利益	6,751	10,072
営業外収益	486	327
営業外費用	523	539
❸ 経常利益	6,714	9,860
特別利益	55	31
特別損失	24	61
税金等調整前四半期純利益	6,745	9,830
法人税、住民税及び事業税	2,863	3,920
法人税等調整額	△179	△160
少数株主損益調整前四半期純利益	4,062	6,070
少数株主利益	345	418
❹ 四半期純利益	3,716	5,651

連結包括利益計算書(累計)

(単位:百万円)	第49期第2四半期 (2012.11.1~2013.4.30)	第50期第2四半期 (2013.11.1~2014.4.30)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,062	6,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,010	161
為替換算調整勘定	139	△ 3
その他の包括利益合計	1,150	158
四半期包括利益	5,212	6,228
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,841	5,809
少数株主に係る四半期包括利益	370	418



連結貸借対照表

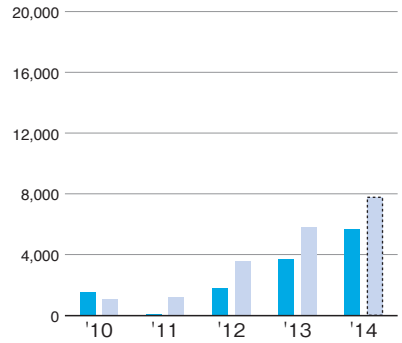
(単位:百万円)	第49期第2四半期 (2013.4.30)	第50期第2四半期 (2014.4.30)
(資産の部)		
流動資産	54,808	69,291
固定資産	96,860	110,961
有形固定資産	89,939	103,697
無形固定資産	416	259
投資その他の資産	6,504	7,003
❺ 資産合計	151,668	180,252
(負債の部)		
流動負債	49,174	58,133
固定負債	56,118	60,000
負債合計	105,292	118,133
(純資産の部)		
株主資本	43,318	58,267
資本金	9,696	13,652
資本剰余金	10,960	14,916
利益剰余金	22,697	29,753
自己株式	△36	△55
その他の包括利益累計額	1,402	1,724
その他有価証券評価差額金	1,341	1,729
為替換算調整勘定	60	△4
少数株主持分	1,655	2,127
❻ 純資産合計	46,376	62,119
負債純資産合計	151,668	180,252

連結キャッシュ・フロー計算書

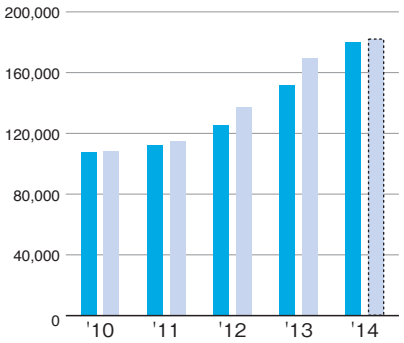
(単位:百万円)	第49期第2四半期 (2012.11.1~2013.4.30)	第50期第2四半期 (2013.11.1~2014.4.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,198	16,668
投資活動によるキャッシュ・フロー	△159	△2,456
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,796	△13,509
現金及び現金同等物に係る換算差額	88	12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,332	715
現金及び現金同等物の期首残高	19,717	32,957
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△4	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,045	33,672

第2四半期 通期 予想値 単位:百万円

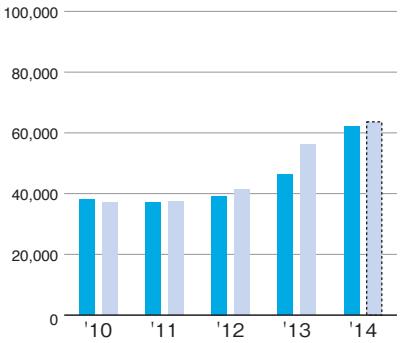
❹ 四半期(当期)純利益



❺ 総資産



❻ 純資産



TOPICS

IR関係　事業関係　イベント

2Q

2014.2

- 陸前高田営業所（岩手県陸前高田市）を開設
- 東証IRフェスタ2014に出展（東京国際フォーラム）
- 金本寛中 代表取締役社長が「室蘭ふるさと大使」に就任
  故 金本太中 前名誉会長の「お別れの会」を執り行いました

2014.3

- 当社子会社の株式会社KGフローテクノが中国・上海に現地法人を設立
- 第50期（2014年10月期）第１四半期決算発表
- ラジオNIKKEIの投資家向け番組
  「ザ・マネー ～火曜日 櫻井英明のかぶとびら」に出演
- 事務職リーダーシップ研修を実施（事務職の社員34名が参加）

2014.4

- 入社式・新人研修を実施（今年度の新入社員は58名）
- 海外IRツアーを実施（英ロンドン・米ボストン、コネチカット、ニューヨーク）
- イベントJAPAN北海道2014に出展

3Q

2014.5

- 株式会社カナモト主催会社説明会を開催（野村證券大阪支店）
- ラジオNIKKEI開局60周年記念 7都市IRセミナー in 新潟に参加
- サンクスフェア2014：北見、湘南を皮切りにスタート
- 平成26年10月期業績予想の修正について発表

2014.6

- 第50期（2014年10月期）第2四半期決算発表
- サンクスフェア in 大館、千葉を開催
- 【東京】第50期第2四半期決算説明会を実施（機関投資家向け）
- ラジオNIKKEIの投資家向け番組
  「ザ・マネー ～火曜日 櫻井英明のかぶとびら」に出演
- サンクスフェア in 函館を開催
- サンクスフェア in 帯広、館林を開催
- ラジオNIKKEI開局60周年記念 7都市IRセミナー in 札幌に参加

2014.7

- 長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメントに協賛
- ラジオNIKKEI開局60周年記念 7都市IRセミナー in 那覇に参加
- サンクスフェア in 室蘭　7/12（土）
- サンクスフェア in 青森、上越　7/12（土）～13（日）
- 道新・UHB花火大会に協賛　7/25（金）

とってもいいモノ・読者プレゼント

巻末のアンケートハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で30名様に当社のオリジナルノベルティグッズをお贈りします。
今号のプレゼントは、カナモト坊やのスポーツタオルです。使い勝手のいいサイズ&ボリューム感が特長で、吸水性に優れた素材を使用しています。スポーツやお風呂などさまざまにお使いいただけます。

ご応募の締め切りは2014年8月8日（金）当日消印有効です。
なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

会社概要

商号	株式会社カナモト（英文：Kanamoto Co., Ltd.）
本社	北海道札幌市中央区大通東３丁目１番地19
東京事業本部	東京都港区芝大門１丁目７番地７
設立	1964年（昭和39年）10月28日
資本金	136億52百万円（払込済資本金）
上場取引所	東京証券取引所市場第一部・札幌証券取引所
証券コード	9678
発行済株式総数	36,092千株
連結売上高	1,108億31百万円（2013年10月期）
連結従業員数	2,231名（2013年10月31日現在） （役員、嘱託、臨時社員を除く）

役員

代表取締役社長	金本　寛中*	常勤監査役	澤田　紳六
取締役	卯辰　伸人**		金本　栄中
	金本　哲男**		横田　直之
	成田　仁志*	監査役	橋本　昭夫
	平田　政一*		辻　清宏
	北方　敬一*		直井　皖
	礒野　浩之*		大場　久夫
	金本　龍男*	執行役員	熊谷　浩
	長崎　学*		問谷　悟
	麻野　裕一*		
	椋梨　直樹*		
	橋口　和典*		
	井尻　康之		
	上谷内祐二		

（注１）*印の取締役は、執行役員を兼任しております。
（注２）**印の取締役は、常務執行役員を兼任しております。
（注３）取締役井尻康之氏及び取締役上谷内祐二氏は社外取締役であります。
（注４）監査役橋本昭夫氏及び監査役辻清宏氏、監査役直井皖氏並びに監査役大場久夫氏は社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	毎年　1月 中
同総会議決権行使株主確定日	毎年　10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年　4月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年　10月31日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部　東京都千代田区丸の内１丁目４番５号
同郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
及び電話照会先	〒137−8081 東京都江東区東砂７丁目10番11号　電話 0120-232-711

当社公告の掲載につきましては、当社ホームページに掲載いたします。
ホームページのURLは下記のとおりです。
http://www.kanamoto.co.jp または **https://www.kanamoto.ne.jp**
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

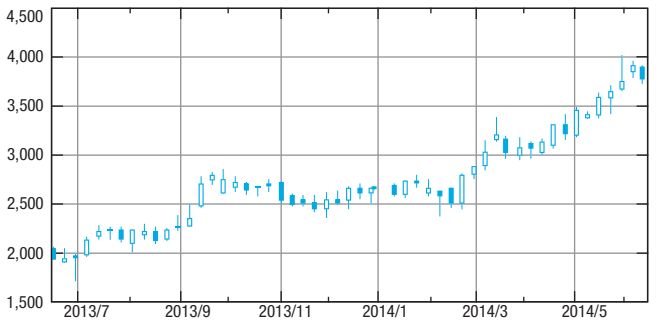
株式に関する各種お手続きについて

（1）株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

（2）特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

（3）未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価チャート（週足）



本誌は、再生紙と
ベジタブルオイルインキを使用しております。

株式会社カナモト
（東証一部・札証　証券コード9678）
〒060-0041　札幌市中央区大通東3丁目1番地19
Tel:（011）209-1600（大代表）
www.kanamoto.co.jp